

# 教育

## ポリシーステートメント

© World Physiotherapy 2023  
[www.world.physio](http://www.world.physio)



---

**推荐阅读:** World Physiotherapy. Policy statement: Education. London, UK: World Physiotherapy; 2023.  
Available from: <https://world.physio/policy/ps-education>

---

# 教育

教育とは、学習を行うことより学習者が変わり、結果として実践法が変わる過程である。理学療法の教育の目的は、学生や有資格の理学療法士の知識、専門、個人における継続的な能力開発を促すことである。理学療法士は、自分が学んだことを継続的に実践に取り入れ、その習得した内容を熟考しながら実践を発展させ、磨いていく。そうやって学生から新人へ、新人から経験を積んだ専門家又は実践者へと成長していく。学習は、いくつもの方法で効率的に進めることができる。正規教育、自発的学習、実践に基づいた学習、テクノロジー学習、協調学習、経験に基づいた学習などがその例である。

理学療法の教育は、学習の連続である。この職業への入り口であるエントリーレベル教育プログラムから始まり、専門家の人生を通じて継続される。変動が激しい医療、ソーシャルケアの環境において、継続的な学習は、能力を維持させるために必要である。生涯にわたる学習は、優れた理学療法サービスの提供および促進、キャリアの前進ために不可欠である。これには高度な実践、専門職としての領域の拡大、専門化、教育、研究、管理、リーダーシップ、アドボカシーなど、伝達可能な専門的メタコンピテンシー能力の適用が含まれる。

世界理学療法連盟は、理学療法士の教育が世界中の多様な社会的、経済的、政治的環境で行われている事実を認識し、理解し、そして重要視している。理学療法士の実践は複雑で、常に変化する環境の中で行われる。その実践に対して情報提供する専門家のエビデンスベースも、継続的な発展の変化の中にある(1)。

よって、理学療法の初期の教育や継続学習で、理学療法士たちは、こういった環境で仕事をするための技術や性質を身に付けなければならない。これにより理学療法士は、教育を受ける国で規定されている、または／および、定義づけられている理学療法の実践の範囲内で十分に活動を行うことができる。よって、学生や理学療法士が、幅広い多様な免許や資格に見合う能力を獲得し、国内又は国外で求められるモビリティ（流動性）に対応できる教育を用意しなければならない(2)。

理学療法士を目指す学生は、大学レベルの教育プログラムを修了していなければならない。最低でも、「理学療法」という言葉を含む学士号を取得していなければならないものとする。つまり、理学療法の理論に加え、実際に理学療法士が仕事をするような幅広い環境での専門家としての実践法を学んでいなければならない。これは、問題認識、分析能力、統合、理論の評価と適用、などの能力の発達のために必要とする知識レベルであり、理学療法の基盤となる過程である。卒業する頃には自律した専門的な理学療法士として活動できるよう、カリキュラムを組まなければならない。プログラムを修了した時点で、安全かつ道徳的に正しい態度に業務を遂行することができる独立した理学療法士として、必要な知識、技能、姿勢、属性が備わっているものとみなす(3, 4)。

世界理学療法連盟は、政府に理学療法のエントリーレベル教育の重要性や、教育に十分な資金提供を行う必要性を訴える加盟組織又はその他関係者を支持し、その活動を促進する。また、：

- 以下の原則を中心としたカリキュラムを提供する適切なエントリーレベル教育を実施する。カリキュラムは：
  - 教育を受ける地域における健康や社会的要求に基づいた分析に基づいている。また、関連する世界保健機関（WHO）のガイダンスに従っている。
  - 学習成果の達成を重視する。
  - 科学的根拠に基づいている、または、科学的根拠が行き渡っている。
  - 卒業生は理学療法士が必要とする知識、技能、姿勢、属性を体得することができる。
  - 責任感を養い、実践のために必要な健康を保つための自己管理を怠らない。
  - 問診、検査、評価、分析、診断、臨床判断、予後、治療／ケアプランニング、介入、健康の促進、疾患や障害の予防、介入の再考と修正、結果の測定と評価、新しい技術の導入などを卒業生が自律的に行うことができる。

- 
- 必要に応じて、国際生活機能分類（ICF）を利用し、個人を中心とした、能動的で機能的なリハビリテーションアプローチを重視する。
  - 卒業生は、エビデンスの分析的な利用者、およびエビデンスに基づく実践者として活動できるようになり、さらに研究技術を発達させることができる。
  - 卒業生は、病院、クリニック、産業、職業、プライマリーヘルスケア、民間医療、公的医療、教育、コミュニティーサービス（田舎や都会も含む）、レジャー、スポーツの施設（ただし、これらに限定されない）を含む幅広い医療サービス現場で働く能力が備わっている。
  - 卒業生は、道徳的又は文化的能力を強化し、多様性を受け入れ、すべての人と包括的かつ道徳的に仕事を行う準備が整っている(5, 6)。
  - 卒業生が国際的に活動できるよう、代替的サービスモデルを含んでいる。
  - 卒業生は、サービスの提供や開発、マネジメント、リーダーシップ、質向上の取り組みに貢献するための心構えができています。
  - 普段の学習の他にも、経験豊富な理学療法士の監修と管理のもと、医療現場での学習や実践も体験することができる。臨床教育では、プログラムを通して、複雑さや責任のレベルが変化すべきである。監修を専門職間/多職種チームに委任することもある。
  - 多職種間教育や、共同実践モデルも含む。
  - 卒業生は、テクノロジーを十分に活用できる知識が身につけている。
  - 理学療法の理論や方法論に対する批判分析や研究の批判的消費を含め、理学療法のプロセスにまつわる知識、技能、属性、機能的回復アプローチを伝授することのできる理学療法士やその他学部教員によって講義が行われる。
  - 理学療法士に必要な科目をすべて教え、評価することのできる学部教員や臨床家が協力しながら講義が行われる。
  - 教育の質、学生の満足度、成績の向上のため、内部および外部による監視と評価を行っている。
  - その効果を最大化するような組織的・教育的背景のもとで提供される。
  - 独自にエントリーレベル教育プログラムを評価し、認証するための認定/評価基準又はその過程を改善し、卒業生が実践につながるよう、専門家として法的に認められるシステムを確立する。これらの基準や過程は、法的規制で規定されている条件を補足するものである。
  - 次のような継続的専門能力開発活動の重要性の認識と、十分な支援および資金提供を提唱する：
    - 理学療法士が新人から熟練/経験豊富な専門家へと成長し、複雑さと変化に順応し、内省的な実践者となり、キャリアを積んでいくことができるよう、生涯にわたって継続的に専門的な学習機会を確保すること。
    - 理学療法士が学習とその実践への影響を記録する手段を検討し、推進する。ツール（例：ポートフォリオ、日記、振り返りアカウント、ログ、アプリなど）は、臨床的に適用可能でコスト効率が高く、技術的な機会やイノベーションを活用できるものであること。
    - 理学療法士がコミュニケーション、監督、教育、技術や知識を効果的に他者に伝授するための教育法を広めること。
-

用語集 (<https://world.physio/resources/glossary>)

**Academic standard** (学術水準)

**Accreditation** (認定)

**Advanced practice** (先進的な実践)

**Assessment** (評価)

**Bachelor's degree** (学士号)

**Collaborative learning** (協調学習)

**Competence** (能力)

**Continued competence** (能力維持)

**Continuing professional development (CPD)** (継続的専門能力開発)

**Diagnosis** (診断)

**Evidence-based practice (EBP)** (エビデンスに基づく実践)

**Faculty** (学部)

**Learning** (学習)

**Practice settings** (実践現場)

**Reflective practice** (自己評価)

**Regulation of the profession** (法的規制)

**Scope of practice** (実践範囲)

**Specialisation** (専門化)

**Standards of practice** (実践基準)

Approval, review and related policy information	
<b>Date adopted:</b>	Originally adopted at the 13th General Meeting of WCPT June 1995 Revised and re-approved at the 15th General Meeting of WCPT June 2003 Revised 2007 to incorporate the Position Statement: Education for entry-level physical therapists (1995) and adopted at the 16th General Meeting of WCPT, June 2007 Revised and re-approved at the 17th General Meeting of WCPT June 2011 Revised and re-approved at the 18th General Meeting of WCPT May 2015 Revised and re-approved at the 19th General Meeting of WCPT May 2019 Revised and re-approved at the 20 <sup>th</sup> General meeting of WCPT May 2023
<b>Date for review:</b>	2027
<b>Related World Physiotherapy policies:</b>	World Physiotherapy policy statements: <ul style="list-style-type: none"><li>• Description of physiotherapy</li><li>• Regulation of the physiotherapy profession</li></ul> World Physiotherapy guidelines: <ul style="list-style-type: none"><li>• Guideline for the development of a system of legislation/regulation/recognition of physiotherapists</li></ul> World Physiotherapy physiotherapist education framework World Physiotherapy guidance for developing a curriculum for physiotherapist entry level education programme

---

## References

1. World Physiotherapy. Policy statement: Evidence based practice. London, UK: World Physiotherapy; 2023 [6 November 2023]. Available from: <https://world.physio/policy/ps-ebp>.
2. World Physiotherapy. Physiotherapist education framework. London, UK: World Physiotherapy; 2021 3 Nov 2023]. Available from: <https://world.physio/what-we-do/education>.
3. World Physiotherapy. Policy statement: Ethical principles and responsibilities of physiotherapists and member organisations London, UK: World Physiotherapy; 2022 [24 Nov 2023]. Available from: <https://world.physio/policy/policy-statement-ethical-responsibilities-and-principles>.
4. World Physiotherapy. Policy statement: Physiotherapist practice specialisation. London, UK: World Physiotherapy; 2023 [24 Nov 2023]. Available from: <https://world.physio/policy/ps-specialisation>.
5. World Physiotherapy. Policy statement: Diversity and inclusion. London, UK: World Physiotherapy; 2019 [6 Nov 2023]. Available from: <https://world.physio/policy/ps-diversity>.
6. Physiotherapy Board of Australia, Physiotherapy Board of New Zealand. Physiotherapy Practice thresholds in Australia and Aotearoa New Zealand.: Physiotherapy Board of New Zealand; 2023 [28 Nov 2023]. Available from: <https://www.physioboard.org.nz/standards/physiotherapy-thresholds>.

© World Physiotherapy 2023